## 無産政黨の概觀

### 1、最近の情勢（特に昭和七年中の主要事項）

### a、國社黨結成の縣下無產政黨へ及ぼした影響

昭和六年末以來舊社民黨內に於て社會民主々義派と國家社會主義派との對立抗爭が續けられ遂に同七年四月兩派の分裂に依り　赤松派が脫黨して國社黨を組織するに至つた、中央の情勢は直ちに本縣の無產戰線に波及するところとなつたのである。

卽ち本縣第四區舊社民選出小池代議士を始めとし社民縣聯田川支部長光吉悅心（當時日本石炭坑夫組合長）舊勞大黨選出八幡市會議員米村長太郞（刷新派勞働組合長）社民選出門司市會議員高次昇の諸氏並に、農民側では主事稲富稜人氏の率ゐる日農縣聯の轉向となつたので、以上の諸氏は何れも國社黨中央執行委員に選ばれ本縣下に於ける新黨の